

ねじ業界のIT経営実践への取り組み

～八幡ねじが自社ITシステムをSaaS化して
ねじ業界向けEDI受発注システムを開発～



ITコーディネータ
高間 正俊

(株)八幡ねじは、平成20年度経済産業省中小企業IT経営革新支援事業の受託事業として推進してきたEDI／基幹業務のSaaS型ソフト「物流改革プラン」を開発。2009年7月21日(月)、名古屋市内のホテルにて成果発表会を開催しました。この「物流改革プラン」は、低コスト・簡単操作のEDIによる自動受発注を中心に、販売・調達・在庫管理など基幹業務の機能が備わった革新的なシステムで、ねじ業界はもとより他産業との広範囲な企業間連携ができるシステムです。

■はじめに

ねじは「産業の塩」ともいわれ日本の基盤産業を支える製品として幅広く使われています。日本のねじ総製造額は9000億円規模ですが、ねじ製造業者の大半は中小・零細企業であり、注文などの取引は電話かFAX、仕様書、図面などは紙ベースで運用されているのが実態です。

ねじは、歴史も長く円熟産業と思われがちですが、多岐に亘る需要先からは、特異な製品仕様、高性能、高品質が常に要求されています。また、クロムメッキ対策など環境問題への取り組み、あるいは海外からの廉価製品との競合などグローバル化の渦中であって、ねじ業界の置かれた環境は極めて厳しいといえます。これらの緊切の課題を乗り越え、ねじ業界全体の健全な発展を推進するためのIT活用の提言として、この「物流改革プラン」が大きな示唆を与えているといえます。「物流改革プラン」のサービス機能は企業間連携としてのEDIと、EDI取引の情報を使った販売・調達・在庫管理など基幹業務の支援機能を備えています。今までIT化に無縁であった中小・零細企業が、低コスト・簡単操作のSaaSシステム導入によりIT経営を実現できる有益なシステムと言えるのではないのでしょうか。

■「物流改革プラン」とは

今回、開発されたSaaSシステムを説明する前に、八幡ねじ殿におけるITシステム開発の経緯から説明を致します。

八幡ねじ殿においては、バブル崩壊後に経営環境が悪化する中、「完璧な品質管理」「ローコスト経営」「グローバル対応」を差別化戦略として追求・実現してきた経緯があります。特に品質管理においては、製品自体の品質管理以外に「出荷品質の向上」による納品精度の追求をしてきました。また、海外から廉価製品が入り込み競合するなかでローコスト経営が避けられません。さらに、顧客ニーズの多様化により、短納期や多品種少量出荷への対応を迫られ、これらの課題を解決するために、EDIを包含した全社統合生産システムの構築に取り組みました。

このITシステム開発の特徴は、「経営と現場の双方に有益なITシステムは自社を知らない他人(ITベンダー)には開発できない」との社長の思いがあって、2001年より自力で開発を進め2007年より「YaCSシステム」(Yahata Conclusion System)として運用が始まりました。

因みに、この「YaCSシステム」によるIT経営実践活動は、「平成19年度中小企業IT経営力大賞」の最優秀賞にあたる経済産業大臣賞を受賞しています。

これを契機として、「YaCSシステム」を広くねじ業界の発展さらには他産業に使ってもらい社会貢献したいとの社長指針がだされ、この主旨に賛同された各社が「ねじEDI／SaaS協議会」に参加され研究を重ねて、SaaSでの「物流改革プラン」が生まれました。

■「物流改革プラン」機能概要

今回、利用各社に提供できたサービス機能は、以下の2つです。

- ①EDIによる自動受発注システム
- ②基幹業務システム(EDIと連動した販売管理、調達管理、在庫管理)

また現在開発中ですが、これに生産管理システムがリリース予定です。

特に、利用企業が低コスト・簡単操作にて受発注処理ができるようEDI処理においては、各社バラバラである商品コード(品番)をSaaS内で自動変換して煩雑な人手作業を省力化しています。

これに現場の声を取り込んだ業務プロセスをSaaSに実装をして、ねじ業界が共通で利用できるEDIと基幹業務システムを構築しています。

■今後の展開

7月21日に開催した「物流改革プラン」成果発表会を皮切りに、ねじ製造企業、取引企業に「物流改革プラン」の普及・展開を始めており、今年度中に利用企業は50社以上に拡大していく予定です。また、ねじ業界に限らず、広く製造業・卸売業に対する普及も計画していきます。

将来に向けて「物流改革プラン」をより付加価値の高いものにするため、機能充実として生産管理システムの機能追加はもとより、他のSaaSシステムとのデータ連携も視野に入れたオープンなシステム開発を推進中です。

他に、このSaaSシステムが以前の「架け橋」で紹介されました共通EDI基盤と連携できるよう、ITCA主催の《データ連携調査研究委員会》にも参画して機能拡充を図っております。

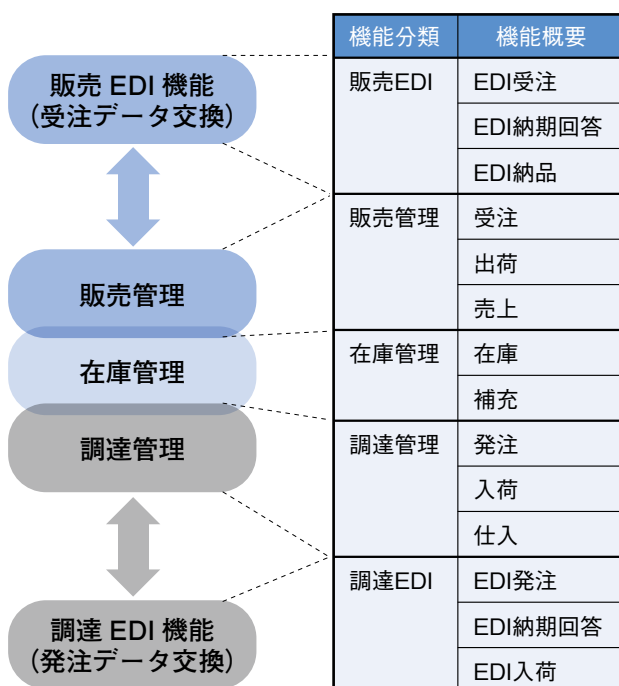


図1 「物流改革プラン」機能概要図

■ITコーディネータあとかぎ

縁あって、(株)八幡ねじ殿には3年前よりお付き合いをさせていただいております。

私の参画する以前からコツコツと手作りの「全社統合生産システム」を開発してこれ2年前に完成し本格稼働をしております。現在は、このITシステムがないと業務遂行が何一つできない必要不可欠な存在となっています。会社訪問をしますと、社員のITシステム開発に対する意欲は、自分たちの道具は自分たちでつくるといった目的意識、全社一丸となって取り組む勢いが痛烈に伝わってきて、本来のIT利活用の在り方を再認識した次第です。

この「物流改革プラン」は、ITベンダーに頼らず自力で開発した「ユーザ発の業務SaaS」であり、経営と現場の声が活かされた現場密着型のシステムと言えます。利用者に判りやすく使いやすいシステムであることを強みとして、今後低コスト・簡単操作で使えるITシステムとして、中小・零細企業が1社でも多く導入されることを願っております。

株式会社八幡ねじ

所在地：愛知県北名古屋市山之腰天神東18

設立：1953年7月（創業：1946年）

代表者：鈴木建吾（代表取締役社長）

資本金：2,000万円

従業員数：245人／984人（グループ計）

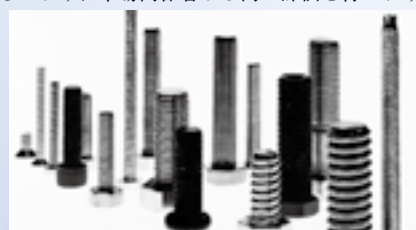
売上高：171億円／231億円（グループ計）（2009年6月期）

ホームページ：http://www.yht.co.jp

株式会社八幡ねじは、「お得意先・お取引先、わたしたち、そして社会の三方が共に幸せになってこそ安定した成長ができる」という『三方善の精神』が社是となっています。

締結部品の製造・販売を主業とし、全国600社の産業機械向け注文販売のほか、全国数千店舗のホームセンターに卸売販売を行う専門メーカーです。

10万種を超える締結部品がある中で、ねじ1本の注文から即納できる販売を実践しており、市場関係者から高い評価を得ております。製造・出荷における品質確保、および迅速な供給体制は、同社の差別化要因となっており、堅調な企業伸長が期待できる企業です。



八幡ねじ 製品群